



## 中国河南省・孟津

# 発展か衰退か 小都市2万の命運

世界銀行タスク・チーム・リーダー 鎌田卓也

**WATCH FIRE**

【開発途上国の明日】



## 中

国の経済発展という点、まず思い浮かぶのは、上海や広州などの巨大都市であろう。しかし、目立たぬところで発展を支えているのは地方の小都市である。農村からの移民のうち半数は、広州のような巨大都市ではなく、近在の町や小都市で仕事に就くといわれている。

河南省の孟津もそんな都市の一つだ。人口はおよそ7万人で、農産品の加工や流通が経済活動の中心。日本で言えば、最近の町村合併でできた新しい地方都市のような雰囲気だ。1人当たりの年間平均所得は8万円程度で、上海の10分の1、同省の平均所得を若干下回る。それでもここ数年の経済成長率は年率8%以上とみられ、そこそこの成績だ。さらなる人口増加に備え、写真のように道路や住宅などのインフラを整備中である。

中国では今後10年間で約2億人が離農し、そのうち半数が孟津のような地方都市に移り住むという試算がある。安い労働力に支えられ、発展は約束されているようだが、話は簡単ではない。中国にはこのような小都市や町が2万以上もある。投資誘致の競争は激しく、多くは発展を遂げても、少なからぬ数の都市が衰退の道をたどると目されている。

地方都市は、どの国でもこれまでに増して変化の激しい時代を迎えるようだ。(写真はYoonhee Kim) ㊞